

Robotics Report

新たな常識のはじまり

日本で高まる サービスロボットへの注目と期待

nikko am
fund academy



コロナ禍に伴ない、世界各国では業務などの自動化や「非接触」を促すサービスロボットの導入が一気に加速しています。今回は、日本におけるサービスロボットの取り組み状況について紹介します。

? 日本で導入が進みそうなサービスロボットとは

日本におけるサービスロボットの社会実装の将来を占う上で、2020年3月に開業した東京の高輪ゲートウェイ駅での各種ロボットの実証実験が注目されています。7月には、人や障害物を回避しながら、手すりやベンチなど、人の手に触れる場所を消毒する自律移動型の消毒作業ロボット（CYBERDYNE社・日本信号が開発）を導入しており、手荷物や軽食などを搬送するロボットやパーソナルモビリティ（小型電動自動車）などの実験も行なわれる予定です。



※イメージです。

ファミリーマートとローソンは、今夏に都内の一部店舗で商品陳列ロボットModel-T（Telexistence社が開発）を試験導入します。このロボットは、VR（仮想現実）機器を使って人が現場の状況を確認しながら遠隔操作することが可能で、多様な形状の商品でも掴めるロボットハンドも備えています。将来的には、従業員がどこにいても就労できる新たな店舗オペレーションの実現が期待されます。

東京都事業「Tokyo Robot Collection」では、積極的にサービスロボットの実証実験を実施しており、施設管理業務の安全性確保や来訪者への安全なサービスが提供できるロボットの普及を目指しています。

? 日本で実用化が加速するのはいつごろか

サービスロボットの導入が進んでいる中国では、例えば配膳用ロボットの利活用が拡大しています。当初は宣伝目的で導入していたようですが、昨今は機能が向上し、非接触を求められるさまざまな場所で導入が急速に進んでいるようです。

日本のロボット輸入商社の関係者は「少子高齢化やコロナ禍の影響を受けている日本も、配膳用ロボットの潜在的ニーズは高く、飲食店の店舗価値向上に貢献し始めている。今後、非接触の需要増に伴ない、病院や介護施設、ショッピングモールなどでも採用が増えるはずだ」と述べています。



※イメージです。

前述のように、日本はサービスロボットの実用化に必要な実証実験・検証を多様なフィールドで繰り返し、課題抽出と改良を積み重ねています。業界を良く知る関係者からは「昨今、サービスロボットの導入を考えている自治体や企業が増えており、2021年ごろから実用化が加速し市場は拡大するだろう」との声も聞かれます。

おもてなしの心を持つ日本ならではのサービスロボットが、実社会で活躍する日も近づいているのではないのでしょうか。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

(当レポートは、株式会社ロボティアの情報をもとに日興アセットマネジメントが作成しています。)

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。